

特別インタビュー

アウシュビッツを生き延びた心理学者 エディス・エヴァ・イーガー博士

1面から続く



©Jordan Engle

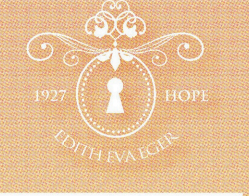
私は姉は他の女の子たちと共に、髪を剃られ、体に合わない囚人服を着せられ、寝床となる粗末なバラックに連れて行かれました。その日の夜が、見覚えのある軍服姿の男が、部下を引き連れてバラックに現れました。メン...

「明日は自由になれる」 — 博士は踊り切り、死を免れました。その後、アウシュビッツで半間の飢えや寒さ、暴力に耐えた博士を待ち受けていたのは、「死の行進」でした。徹底的な監視の下、何カ月も各地の収容所を転々とさせられました。

ある時は、イキリ車の爆撃を避けるための「人間の砲」にして、弾薬を積んだ列車の屋根に乗せられました。またある時は、男性だけの収容所であるオーストリアのマウトハウゼンに連れて行かれました。

「解放後、博士はハンガリーに帰国。結婚後の49年、戦争の傷癒えぬ心と口を離れ、一人でアメリカに移住。しかし博士の苦悩は続きました。

移住として善し始めた50年代、私は新しい英語を話しかけたいという気持ちでいっぱいでした。アウシュビッツにいたことを知られて、同僚などに話されたりませんでした。沈黙を守り、過去と自分自身から目をそらすことで、心の痛みやトラウマを必死に隠そうとしていたのです。



両親と姉たちと共に。母親に抱かれている赤ん坊がイーガー博士 ©Edith Eger



イーガー博士はオリンピックの体操選手になれるほどの実力があつた。写真撮影は恋人のエリック ©Edith Eger



解放後、夫のペーラさんと結婚。長子は女の子だった ©Edith Eger



としてのキャリアを開始。93歳の現在もカリフォルニア州ラ・ホーヤで、臨床心理士として多忙な日々を送り、カリフォルニア大学サンディエゴ校で教員も務めている。90歳で初出版となった本書は、世界35万部を記録している。

心を解き放つ鍵は、あなた自身の中に

起すこともありません。文字通りの収監が終わって、歲月が流れても、心は解放されていなかったのです。

「そんな中、ヴィクトール・フランクルの著書『夜と霧』に出会います。精神科医であり、心理学者でもあった氏も、アウシュビッツを生き延びました。

「何ページもわたってメモを取らなければならない。一冊に出あつたのはありませんか。3人の子ともたちの子育てに余裕がなく、テキサス大学エルバ校で学部生として学んでいた年長の叔母です。ある学生からこの本を渡されました。読み進めるにつれて、私がすつと心なだれて、身動きできないほどの衝撃を受けました。

「新しい人生の出発でした。アウシュビッツで母と姉と共にメンゲレの前立ったあの時、姉は母を指さして、「母親か、姉か」と私に尋ねました。その答えが母です。と答えて、メンゲレは母を「左へ」振り分けました。私が左の方向へ向かいました。

「私にとって、自由をつかむとは、許すとは、失ったもの、かなわなかった過去、心の傷や失望を深く悲しみ、思う存分、吐き出すことです。また、怒りを伴わないのです。

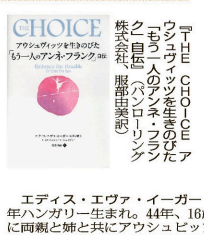
人間を強制収容所に入れて全てを奪うことはできない、与えられた環境でいかに振る舞うかという、人間としての最後の自由だけが奪えない。

「それから2年後のある日、「ある生還者から別生還者へ」との手紙が届きました。フランクル博士本人からでした。「夜と霧」を読んだ後、私は自分の過去を語る初めての試みとして、「ヴィクトール・フランクルと私」と題するエッセイを書きました。博士がそれを読んだのです。博士がそれをこの人を通して、私たちに届けた友情を通して、私たちが互いに抱いていた疑問に対する答えを見いだそうとした。なぜ生き残ったのか、自分の苦しみからどんな意味を見いだせるのか、自分自身と他者を救うにはどうすればいいのか。博士との対話は、私に使命の種を植えてくれました。

「自由もありません。過去も現在もあるがままに受け入れ、欠陥もある自分をも抱き締めあげることができず、心にあらゆる嵐を一つ一つ取り去る勇気も無い限り、傷を癒してあげることができません。

「今でもサイレンや大きな音を聞くたびに驚きます。過去は消えてはいませんが、乗り越えては生きています。でも過去には生きていません。私は苦しみました。被害者ではないのです。生還者であり、「前進する者」です。

「博士の書に希望と勇気をもたらします。生きていく限り、誰かが何らかの形で被害や迫害を受ける可能性があります。近所のいじめっ子、



エディス・エヴァ・イーガー 1927年ハンガリー生まれ。44年、16歳の時に両親と姉と共にアウシュビッツに送られる。戦後、夫と姉と共にヨーロッパを離れ、米国に移住。40代で心理学博士号を取得し、50代から臨床心理士

ご感想をお寄せください world@seikyo-np.jp

EVEN IN HELL HOPE CAN FLOWER

Advertisement for 'Wahaha' (王と花魁) performance. Includes dates (10/28, 10/30, 10/29, 10/31) and venue (新信文化センター大ホール).

Advertisement for 'Anago Meshi' (あなごめし) by Watanabe. Features '島根大田のあなご!!' and '水揚げ量 日本一!!'. Price is 598 yen.